

室住一妙先生略年譜

大正十年夏、浅草蓮城寺に於いて清水竜山師の講席に列なる。

大正十二年九月一日、大震災。

明治卅七年（一九〇四）七月十日、新潟県刈羽郡石地町

室住健治（43才）キセ（36才）の五男として生る。健

次郎と命名。

明治四十四年四月、石地町尋常小学校に入学。

明治四十四年十一月廿三日、父（50才）逝去。

明治四十五年三月廿七日、祖父八平（70才）逝去。

大正六年三月、小学校卒業。上京。

大正六年四月、東京本郷蓬萊町、郁文館中学に入学（故

郷の内藤久寛氏へ日本石油社長Vの援助による。）

大正七年一月十五日、母キセ（50才）逝去。

大正七年七月、肋膜炎のため退学（中学二年）、兄健太郎

のすすめで入信、漸快。

以後家兄の手伝、大蔵省給仕、下谷坂本郵便局々員を

勤務、又中学講義録をとって自習。将来の職業一生の

方途について悩み、僧となることを決す。

大正九年三月、下谷日暮里善性寺望月日謙の弟子とな

る。

大正九年四月、日蓮宗大学中等部一年に入学。

大正十三年四月、立正大学予科一年に転入学。

昭和五年三月、立正大学本科宗教科卒業。（卒業論文、

日蓮宗教学一般への省察）

昭和七年、山梨県身延本妙庵に寄寓

昭和八年三月、立正大学研究院修了（論文台東両密教判

の検討）

昭和八年、得度、一妙と改名。

昭和八年夏、鎌倉にて高佐貫長師の手伝、御書編纂。

昭和八年、本妙庵焼失。再建後住居。

昭和九年二月、山梨県身延町祖山学院講師。

昭和九年四月、全助教授。

昭和十年三月、全退任。

昭和十年四月、久遠寺内身延文庫嘱託。

昭和十五年四月、祖山学院教授、兼図書館主任。

昭和十六年四月、祖山中学教諭。

昭和十六年、祖山学院昇格して身延山専門学校となる。

教授兼図書館主任。

昭和廿三年四月、身延山高等学校教諭。

昭和廿四年、昭和定本日蓮聖人遺文の編纂委員に列す。
昭和廿五年四月、国の学制改革により、身延山短期大学の教授兼図書館長。又厚德寮々監。

昭和廿七年、甲府市三上しま（58才）と結婚。

昭和廿九年五月、普通試験検定委員、以降毎年度に及ぶ。

昭和卅四年、僧階昇叙して権僧正。

昭和卅四年八月、身延町梅平三九八六に移転。

昭和卅八・卅九・四十年度の布教研修所の主任。

昭和四十一年度より、布教研修所の常任講師の一に列す。

昭和四十一年度、立正大学仏教科特別講師となり今日に及ぶ。

昭和四十二年、日蓮宗宗務院内現代宗教研究所の顧問に就任、今日に至る。

昭和四十三年、身延山短期大学学頭に就任、今日に至る。

室住一妙先生著作・論文目録

○著作の部

- 1、身延文庫略沿革 昭和18年身延山久遠寺刊
- 2、行学院日朝上人 全26年7月同
- 3、開目抄に聞く 全41年4月教育新潮社刊
- 4、日蓮大聖人と俱に 全42年2月全
- 5、いのちの連環 全45年大宣堂印刷
- 6、撰折論の展開 全43年3月平楽寺書店（共著）
「近代日本の法華仏教」
- 7、五綱判論 全26年11月平楽寺書店（共著）
「望月欲厚先生古稀記念論文集」
- 8、日蓮聖人の教義 全36年12月教育新潮社（共著）
「身延山久遠寺」
- 9、七面山縁起と考証 全35年11月七面大明神奉讃会
「七面大明神縁起」 （共著）
- 10、聖誕七五〇年に思う―その人の意味について―
「日蓮聖人研究」 全47年平楽寺書店（共著）
- 11、宗義大意 全47年身延山短大（共著）
「普通試験（甲）講義要録」
- 12、御講聞書をめぐって 全49年平楽寺書店（共著）
「日蓮教学の諸問題」
- 13、撰折論の展開 全48年平楽寺書店（共著）
「近世法華仏教の展開」